第一回「暮らしの課題の「見える化」フィールドワーク」を実施しました。（岩手県陸前高田市、大槌町）

2023 年 9 月 3 日~5 日 実施

キーワード：暮らしの課題、防災訓練、まちづくり、市民の合意、防潮堤
調査地域：岩手県陸前高田市、大槌町

防災復興支援センター「暮らしの課題の「見える化」」調査で、岩手県陸前高田と大槌町にてフィールドワークを行いました。盛岡短期大学部国際文化学科の 8 名の学生はそれぞれの担当地域で聞き取り調査と観察を行いました。調査項目は以下のとおりです。この調査は今後継続し、報告書並びにデータとして残していくことになります。地域の皆様、役所の方々にはご多忙のところ丁寧に対応していただきましたことに対して、改めて深く御礼申し上げます。

1. 陸前高田　市役所、地元 NGO
2. 大槌町　町役場、防潮堤近辺
3. 大槌高校の「探究学習」での高校生の取り組み
4. 商業施設「マスト」の立地、周辺の交通機関、普段の暮らしで震災前と後とで変わったこと、継続している課題、解決しつつある課題の聞き取り。

顕著な共通点としては、コミュニティの構成が比較的短い期間で変化していること、公共交通機関の著しい衰退、災害とそれに伴う避難行動に関する情報伝達システムについて防災課を中心に外部企業と協力してシステム構築を行なっている自治体とそうでない自治体の差が明確になってきていることなどが挙げられる。伝承に関しては、津波伝承館のみならず、「語り部」や「防災士」の活動の再評価が必要だという声、「観光」を主眼とした施設が結局は市民の税金で運営されている点について、市民のコミュニティで普段から使用できる場が欲しかった、などの意見を多く収集することができた。また、大槌町では防潮堤の高さに関して、行政と住民の協議の結果、住民の提示した「海の見える高さ」の防潮堤建設案が採用されたケースを取り上げた。「市民主体のまちづくり」の一つの事例として今後の調査に活かされる可能性のある結果を得た。いずれの調査結果も、そこに至るプロセスと今後の展望についてきめ細やかな分析が必要なものとなっており、学生にとって非常に有意義なものとなった。また多くの市民の皆さんの要望なども時間の許す限りお聞きすることができた。この経験を今後に活かしたいと思う。

■実施概要：
（1）調査日時 2023 年 9 月 3 日　～　9 月 5 日
（2）地域： 陸前高田市、大槌町
（3）対象： 市役所職員、商業施設、一般市民聞き取り調査
（4）協力： 陸前高田市役所、大槌町役場、大槌高校、マスト、SET
（5）調査参加者数 ：学生 8 名

文責：小野田　摂子（盛岡短期大学部）

大槌町防潮堤 2023.9.4

陸前高田市役所展望室からの防潮堤 2023.9.5

蓬莱島 2023.9.4

文責：小野田　摂子（盛岡短期大学部）